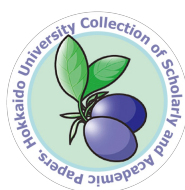




HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ノルウェーにおけるサーミ教育の現状と課題 : 初等・中等教育の場合
Author(s)	上山, 浩次郎
Citation	北海道大学大学院教育学研究院紀要, 128, 131-153
Issue Date	2017-06-23
DOI	https://doi.org/10.14943/b.edu.128.131
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66772
Type	departmental bulletin paper
File Information	070-1882-1669-128.pdf



ノルウェーにおけるサーミ教育の現状と課題

—— 初等・中等教育の場合 ——

上 山 浩次郎*

【目次】

はじめに

1. ノルウェーにおけるサーミ教育の展開
2. ノルウェーの学校教育制度とサーミ教育の概要
3. カリキュラム
4. 教材と教員
5. サーミ教育を受ける生徒学生数

おわりに

【キーワード】先住民教育, ノルウェー, サーミ

はじめに

先住民の人々は、近代以降、同化を強いられ、収奪や搾取の対象にもなった。しかし、第二次世界大戦後以降、先住民族の運動、国家の政策、国際機関での議論などを背景に、先住民族の復権の動きが進んだ（小内編2015: 3）。これらの動きは、北欧の先住民であるサーミの人々にも当てはまる。

こうしたサーミの人々の復権の動きを把握する上では、学校教育のあり方を理解することが重要な意味をもつ。なぜなら、サーミの同化の重要な局面をなすサーミ語の衰退過程（Sámi Language shift）の具体的なプロセスや要因の1つとして、同化主義的な学校システムの存在が指摘されてきたからである（Aikio 1991）。

北欧の3カ国（ノルウェー、スウェーデン、フィンランド）の中では、ノルウェーがサーミ復権のモデルとしてみなされることが多い。サーミの人々に対する最も激しい同化の歴史があったからこそ、サーミの復権を強力に進展させてきたとも言ってよい（Aikio-Puoskari 2009: 243, 248-50, Hammime 2016: 3）。

そこで、本稿では、そうしたノルウェーを対象に、その学校におけるサーミ教育の現状について検討を加えてみたい。「学校の授業語はノルウェー語と定められ、1880年代までかろうじて補助語の地位をたもったサーミ語も1905年からは教育からは完全に姿を消すことになった」（庄司1995: 240）とも評価されたノルウェーの学校教育は、現在どのような状況にあるのだろうか。

以下、ノルウェーにおけるサーミ教育の変遷を特に戦後以降に注目して概観し（→1.）、現在におけるノルウェーの学校教育制度とサーミ教育の概要を示した後（→2.）、初等教育と中等教育に注目して、カリキュラム（→3.）と教材・教員のあり方（→4.）を検討する。それらを踏まえた上で、サーミ教育を受ける生徒・学生数を検討し（→5.）、ノルウェーにおけるサーミ教育の現状を明らかにしたい。

1. ノルウェーにおけるサーミ教育の展開

ノルウェーのサーミ教育において1959年は大きな節目としてみなされている¹⁾。なぜなら、その年に出された教育法（Folkeskolelov1959）の中で、補助言語としてのサーミ語に関する分離規制が追加されたからである。そこでは、初等学校においてサーミ語が教授言語として利用可能になった。またその前年の1958年には、後述するカウトケイノ・アップパー・セカンダリースクール（Sámisk vidaregående skole og Reindriftsskole Kautokeino）の前身組織である職業学校がカウトケイノに設立されている（Solbakk 2006: 87）。その後、サーミに関する事柄は学校教育の中での位置を獲得し始めるようになる。

例えば、1967年からは、初等教育段階において学校で公的にサーミ語が使用可能になり、1974年に導入された「モデル・プラン74」（Mønsterplan for Grunnskolen 74）とよばれるカリキュラムには義務教科としてのサーミ語が含まれている。また1975年の教育法（Grunnskoleloven1975）では、サーミ地域に住むサーミの子どもは、保護者が望めば、サー

ミ語による教育が提供されると述べられている。

また、1968年に国立トナカイ飼育学校 (Statens reindriftsskole) がコーフィヨルド (Kvæfjord) に設置され、1969年にはカラショークシックスフォーム学校が設立されている (Solbakk 2006: 87)。このうち、カラショークシックスフォーム学校は、1978年に名称を変更し、カラショーク・アッパー・セカンダリースクール (Sámisk videregående skole, Karasjok) となる。また、先に触れた1958年に設立されたカウトケイノの職業学校は、1968年にカウトケイノ・サーミ職業ハンドクラフト学校 (Den samiske yrkes- og husflidsskole. Kautokeino), 1976年にカウトケイノ・サーミアッパーセカンダリースクール (Sámisk videregående skole. Kautokeino.) に名称を変更し、前述の国立トナカイ飼育学校は1981年にコーフィヨルドからカウトケイノに場所を移した。そして、1988年に両者は統合し、現在のカウトケイノ・アッパー・セカンダリースクールとなる。これらカラショーク・アッパー・セカンダリースクールとカウトケイノ・サーミアッパーセカンダリースクールは、国立の機関であり教育研究省の直接の下位機関となっている。

さらに、1987年から導入されたカリキュラム「モデル・プラン87」(Mønsterplan for Grunnskolen 87) では、サーミの生徒への教育に関する一般的な目的や、サーミ語を学ぶことやサーミ語で学ぶことに関する科目の配分などが記載されており、その意味でより一層サーミに関する教育が強調されるようになる。そして、1989年にはこうしたカリキュラムに「モデル・プラン、セカンドパート：サーミシラバス」(Mønsterplan for Grunnskolen: 2. del : sámiske fagplaner) が追加された。そこには、いくつかの教科の中で、一定程度サーミの状況に合わせたシラバスが含まれている。

1990年の教育法では (Grunnskoleloven1990), サーミ地域に住む全ての子どもに対して、エスニシティに関わらず、サーミ語を学ぶこととサーミ語で学ぶことに関する権利が与えられた。また、サーミ地域以外のサーミの子どもには、一つの学校で少なくとも3名の者が望めばサーミ語を学ぶこともしくはサーミ語で学ぶことに関する権利が与えられた。

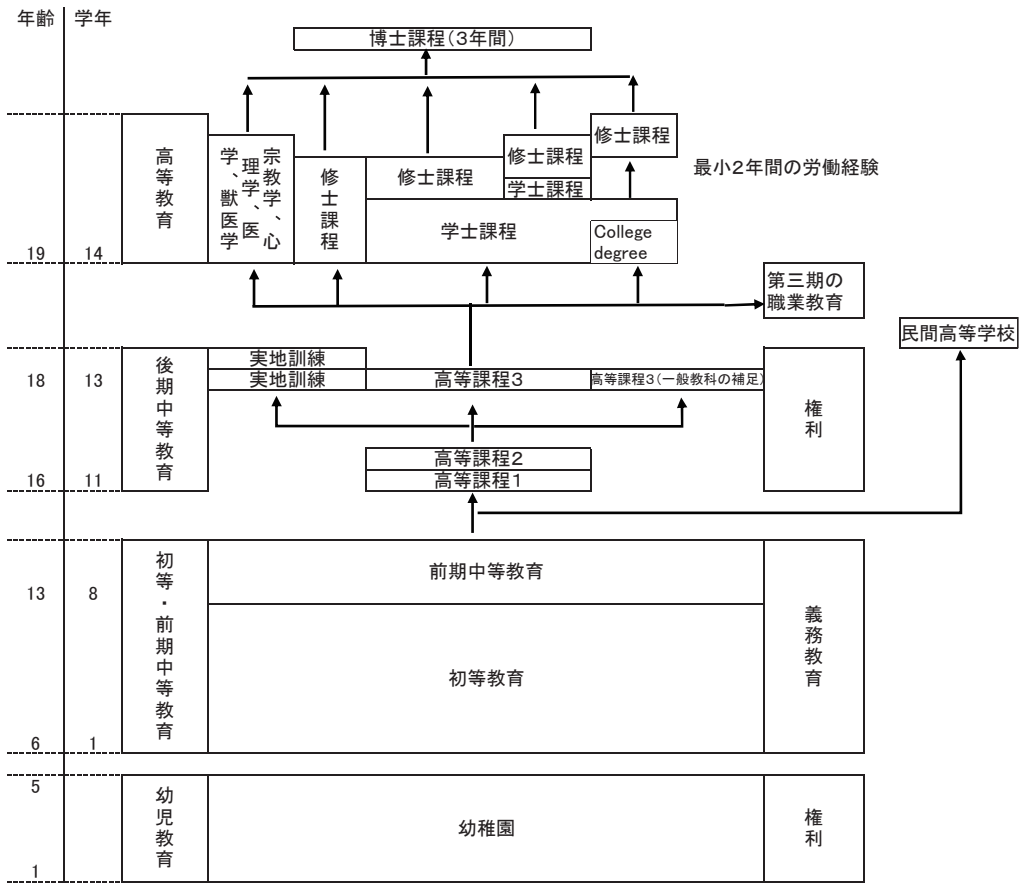
加えて、1997年には、ナショナルカリキュラム (Læreplanverket for den 10-årige grunnskolen) と同等の位置を与えられる「サーミカリキュラム」(Det Sámiske læreplanverket for den 10-årige grunnskolen) が導入された。それらのカリキュラムは、それぞれ一般セクション・原理・シラバスからなるが、両者の原理の中には、学校教育の中で強調し次世代へと伝えるべきサーミ文化の側面が述べられている。ただし、こうしたカリキュラムは、後期中等教育では導入されていなかった (Lund 2000: 10-11)。

しかし、1998年には、現行の教育法 (Lov om grunnskolen og den vidaregåande opplæringa (opplæringslova)) の中で、後期中等教育を含めてノルウェー全てのサーミの子どもたちがサーミ教育を受ける個人的な権利を与えられることなどが規定された。そして、2006年から導入されたカリキュラムである「ナレッジ・プロモーション」(Kunnskapsløftet) と同等の位置づけを持つ「ナレッジ・プロモーション——サーミ」(Kunnskapsløftet samisk) が、初等・前期中等教育、後期中等教育で導入されることとなった。

2. ノルウェーの学校教育制度とサーミ教育の概要

2-1 学校教育制度

ノルウェーの学校教育制度の概要を図1から確認すると、そこからはノルウェーの学校教育は、幼児教育、初等・前期中等教育、後期中等教育、高等教育という4つの段階に大別できることがわかる²⁾。



出典 Statistics Norway (2017) から作成

図1 ノルウェーの学校系統図

幼児教育は、権利として認められており1～5歳までを対象としている。初等教育と前期中等教育は、義務教育であり、6歳から12歳までの初等教育と13歳から15歳までの前期中等教育に分かれる。後期中等教育は、16歳から始まり、およそ3～4年かかる一般教育のプログラムと職業教育のプログラムが提供されている。高等教育についてみると、その主要な構造は3年の学士学位、2年の修士学位、3年の博士プログラムからなる3・2・3モデル（Statistics Norway2017：3）である。

表1 後期中等教育の供給構造

一般教育		職業教育	
一般教育	プログラム	職業教育	プログラム
	教科専門科目		工業生産
	自然科学		電気電子
	社会科学		建築建設
	スポーツ		レストランと食品加工
	音楽・ダンス・演劇		農業漁業林業
	音楽		保健とソーシャルケア
	ダンス		デザインとハンドクラフト
	演劇		サービスと流通
	芸術・デザイン・建築		
	メディアコミュニケーション		

* 2016-17年度

* Utdanningsdirektoratet (UDIR) の以下のURLから作成

(<https://www.udir.no/regelverk-og-tilsyn/finn-regelverk/etter-tema/Innhold-i-opplaringen/udir-01-2016/vedlegg-1/3vgo/#3.3.2studiespesialisering>)

後期中等教育の場合を表1から詳しくみると、一般教育には、「教科専門科目」などの5つのプログラムが、職業教育には、「工業生産」などの8つのプログラムが提供されている。一般教育のうち、教科専門科目は、1年次に共通の内容が提供されたのち2年次以降に「自然科学」と「社会科学」に分かれ、「音楽・ダンス・演劇」も同様に2年次以降に「音楽」「ダンス」「演劇」に分かれる。職業教育は、多くの場合、学校で行われる2年間の学習と2年間の実地訓練（計4年間）でなされるものの、学校での1年間と実地訓練の3年間の場合、学校での3年間の場合など複数の形態で提供される³⁾。

2-2 教育法とサーミ教育

ノルウェーの学校教育は、教育法 (Lov om grunnskolen og den vidaregåande opplæringa (opplæringslova)) によって法的な枠組みが定められている。その教育法の第6条にはサーミ教育に関する事項が規定されている⁴⁾。

ここでは、まず、サーミの人々やサーミ語などの定義がなされている(6-1)。それによれば、サーミの人々とは、サーミ議会 (Sámetinge) の選挙人名簿に登録されている人と、その子どもたちのことを指し、サーミ語とは、北サーミ語、南サーミ語、ルレ・サーミ語を指す。

初等・前期中等教育に関してみると(6-2)、まず、サーミ地域⁵⁾では、サーミ以外の者も含むすべての子どもが、サーミ語を学ぶことやサーミ語で学ぶ権利を持っている。他方、サーミ地域以外の地域では、自治体の中で少なくとも10人の子どもがサーミ語を学ぶことやサーミ語で学ぶことを望めば、その子どもたちはそのグループの人数が少なくとも6人になるまでそうした教育を受ける権利を持っている。ただ、サーミ地域以外の地域においてサーミの子どもたちはそうした教育を受ける個人的な権利ももっており、教育研究省 (Kunnskapsdepartementet) は、学校に適切な教員が提供できない場合、そうした教育を行う他の形態に関する規則を定めてもよい。なお、第8学年から、子ども自身がサーミ教育を受けるかどうか決定する。

他方、後期中等教育の場合(6-3)、サーミの子どもは、サーミ教育を受ける権利を持っている。また、初等・前期中等教育の場合と同様に、教育研究省は学校に適切な教員が提供できない場合、そうした教育を行う他の形態に関する規則を定めてもよい。

教育の内容に関して（6－4）、サーミ議会は、初等・中等教育におけるサーミ語教育や、後述する後期中等教育の特定のサーミ教科に関するカリキュラムに関わる規則を定める。その規則は、教育研究省によって定められた資源の範囲や配分の中で行われなければならない。教育研究省は、サーミ教育を受ける子どもたちの上記以外のカリキュラムに関する規則を定める。ただし、サーミ議会は、教育研究省との協議の中で、これらの規制の草稿を作成する。

3. カリキュラム

3－1 初等・前期中等教育

ノルウェーには、「ナレッジ・プロモーション」（Kunnskapsløftet）と呼ばれる教育内容の大枠を定めるカリキュラムがある。ただし、それと同等の位置づけを持つ「ナレッジ・プロモーション——サーミ」（Kunnskapsløftet samisk）が存在している。それを比較したものが表2である。

両者の違いとしては、まず、第1に、「ナレッジ・プロモーション——サーミ」には、「ナレッジ・プロモーション」におけるノルウェー語の代わりに、「第一言語としてのサーミ語（ノルウェー語）」と「第二言語としてのノルウェー語（サーミ語）」がある。ここでは、例えば、第一言語としてサーミ語を選択した場合には、第二言語としてのノルウェー語が選択される。なお、「第二言語としてのサーミ語」には難易度別に「サーミ語2」「サーミ語3」がある。

「ナレッジ・プロモーション——サーミ」の場合、例えば初等教育段階では「第一言語としてのサーミ語（ノルウェー語）」は954時間、「第二言語としてのノルウェー語（サーミ語）」は608時間と合わせて1562時間学ぶ必要があり、「ナレッジ・プロモーション」の「ノルウェー語」の1372時間よりも多くなっている。その代わりに、「ナレッジ・プロモーション——サーミ」では「外国語/教科専門科目」を学ぶ必要がない⁶⁾。

また、第2に、「ナレッジ・プロモーション——サーミ」には、「ナレッジ・プロモーション」における教科と「平行で同等」な位置を与えられている「宗教——サーミ」「自然科学——サーミ」「社会研究——サーミ」「芸術と手工芸——サーミ」「音楽——サーミ」「食物と栄養——サーミ」がある。それらの中では、サーミに関する内容やそれに伴う達成目標としてのコンピテンスが強調されている。

例えば、「芸術と手工芸——サーミ」では、サーミの伝統的工芸であるDuoji（ドゥオジ）に関するコンピテンス、「音楽——サーミ」では、サーミの伝統歌謡（法）であるJouku（ヨイク）に関するコンピテンスなどが明記されている。また、「食物と栄養——サーミ」では、その教科の目的に関する記述の中で「サーミの伝統に基づいた調理は、伝統的知識を次世代へと継承することに貢献する」と明記されており、コンピテンスとしても「サーミや他の先住民族の伝統を比較しながら、どのように食べ物に関する文化が交錯してきたか考えることができる」（10年生）などの記載がみられる。

続けて、表3から、「宗教——サーミ」「自然科学——サーミ」「社会研究——サーミ」の主な違いを確認しておこう。「宗教——サーミ」では、例えば、教科の目的の中に、「ナレッジ・プロモーション」の「宗教」では触れられていない「ノルウェー北部の先住民族がもつ北極圏

の宗教的伝統は、共通の宗教的遺産である。」という記述がみられ、その点を反映し、教科の主要領域の中に、「ナレッジ・プロモーション」の「宗教」では存在しない「北極圏の先住民宗教」という領域がある。こうした「北極圏の先住民宗教」のコンピテンスをみると、例えば、「サーミや他の北極圏における土地や動物に関する神話について述べることができる(4年生)」という記述がみられる。また、コンピテンスに関していえば、「ナレッジ・プロモーション」と同じ領域においてもその力点が異なっている場合もある。例えば、「キリスト教」に関するコンピテンスの中には、「ナレッジ・プロモーション」では強調されていない「サーミ語・文化・社会に対するキリスト教の重要性について話し合い、サーミコミュニティの中での教会の関与について議論できる」(10年生)などの記載がみられる。

表2 教科の配分(初等・前期中等教育)

ナレッジ・プロモーション	初等教育			前期中等教育 8-10年生	合 計
	1-4年生	5-7年生	計		
宗教(KRLE)			427	153	580
ノルウェー語(Norsk)	931	441	1372	398	1770
算数・数学(Matematikk)	560	328	888	313	1201
自然科学(Naturfag)	187	179	366	249	615
英語(Engelsk)	138	228	366	222	588
外国語/教科専門科目 (Fremmedspråk /fordypning)				222	222
社会研究(Samfunnsfag)			385	249	634
芸術と手工芸(Kunst og håndverk)			477	146	623
音楽(Musikk)			285	83	368
食物と健康(Mat og helse)			114	83	197
体育(Kroppøving)			478	223	701
選択科目(Valgfag)			0	171	171
キャリアデザイン(Utdanningsvalg)			0	110	110
柔軟な時間(Fleksibel time)			38	0	38
身体活動(Fysisk aktivitet)	0	76	76	0	76
合計			5272	2622	7894

ナレッジ・プロモーション——サーミ	初等教育			前期中等教育 8-10年生	合 計
	1-4年生	5-7年生	計		
宗教——サーミ(KRLE)			427	153	580
第一言語としてのサーミ語(ノルウェー語) (Førstespråk samisk/norsk)	642	312	954	284	1238
第二言語としてのノルウェー語(サーミ語) (Andrespråk norsk/samisk)			608	228	836
算数・数学(Matematikk)	560	328	888	313	1201
自然科学——サーミ(Naturfag)	187	179	366	249	615
英語(Engelsk)	138	228	366	222	588
外国語/教科専門科目 (Fremmedspråk / fordypning)				0 (171)	0 (171)
社会研究——サーミ(Samfunnsfag)			385	249	634
芸術と手工芸/ Duodji(Kunst og håndverk/duodji)			477	146	623
音楽——サーミ(Musikk)			285	83	368
食物と健康——サーミ(Mat og helse)			114	83	197
体育(Kroppøving)			478	223	701
選択科目(Valgfag)				171	171
キャリアデザイン(Utdanningsvalg)			0	110	110
柔軟な時間(Fleksibel time)			38	0	38
身体活動(Fysisk aktivitet)	0	76	76	0	76
フレキシブルポット(Fleksibel pott)				108	108
合計			5462	2622	8084

* フレキシブルポット：第一言語や第二言語の教育を効果的に行うために使われる時間

* Utdanningsdirektoratet (UDIR) の以下のURLのTabell(表)1とTabell(表)2から作成

(<https://www.udir.no/regelverk-og-tilsyn/finn-regelverk/etter-tema/Innhold-i-opplaringen/udir-01-2016/vedlegg-1/2.-grunnskolen/#2.2ordinar-fag-og-timefordeling>)

表3 カリキュラム間の相違（初等・前期中等教育）（「宗教」「自然科学」「社会研究」）（抜粋）

宗教		「宗教」	「宗教——サーミ」
目的		キリスト教の信仰と伝統は、何世紀にもわたり、ノルウェーやヨーロッパの文化を特徴づけてきた	キリスト教の信仰と伝統は、何世紀にもわたり、サーミ、ノルウェー、ヨーロッパの文化を特徴づけてきた
			ノルウェー北部の先住民民族がもつ北極圏の宗教的伝統は、共通の宗教的遺産である。サーミの自然観や価値観は、文化、社会、習俗、伝統を理解することに貢献する
主要領域		キリスト教	キリスト教
		ユダヤ教、イスラム教、ヒンドゥー教、仏教と精神性	北極圏の先住民宗教 ユダヤ教、イスラム教、ヒンドゥー教、仏教と精神性
		哲学と倫理	哲学と倫理
コンピテンス	キリスト教		サーミ語・文化・社会におけるキリスト教の重要性について話し合い、サーミコミュニティの中での教会の関与について議論できる（10年生）
	北極圏の先住民宗教		サーミや他の北極圏における土地や動物に関する神話について述べるができる（4年生）
	北極圏の先住民宗教		サーミの自然観の中の重要な神や神性について概観でき、それらがどのように習慣や儀礼を通して扱われているか説明できる（7年生）
自然科学		「自然科学」	「自然科学——サーミ」
目的			サーミの伝統的知識（実践的な技能や全体論的な考え方）やサーミの技能（自然を理解し、道徳的かつ責任のある形で自然を活用すること）などが次世代へと継承されることに貢献する
主要領域		科学	科学
		自然の多様性	自然の中の人間 自然の多様性
		身体と健康	自然の多様性 身体と健康
		現象と物質	身体と健康 現象と物質
		テクノロジーとデザイン	現象と物質 テクノロジーとデザイン
コンピテンス	自然の中の人間		他の先住民民族の自然資源の利用の仕方について述べるができる（7年生）
	自然の中の人間		実践を行うことを通して、自然の中でそれを活用し生活することや感度があり責任がある形で自然を活用する仕方を説明できる（10年生）
社会研究		「社会研究」	「社会研究——サーミ」
目的			この教科は、サーミエリアのサーミ文化などの北方サーミに関する知識を含む。
		この教科を通して、生徒学生は、過去と現在の社会問題を分析・議論することや、多様な権力関係を議論することに関する素養を育む	この教科を通して、生徒学生は、過去と現在の社会問題を分析・議論すること、多様な権力関係を議論すること、先住民民族やマイノリティの状況と権利を分析することに関する素養を育む
コンピテンス	社会研究		こんにちのサーミ文化や生活様式の主な特徴や、先住民民族としての彼らの地位について述べるができる（4年生）
	社会研究	ノルウェーにおける権力制度とその責務について説明できる（7年生）	ノルウェーにおける権力制度（含：サーミ議会）とその責務について説明できる（7年生）
	社会研究		現代において伝統的な知識がどのようにして継承されるができるか議論できる（10年生）

* Utdanningsdirektoratet (UDIR) の以下のURLから作成

「宗教」: <https://www.udir.no/kl06/RLE1-02>

「宗教——サーミ」: <https://www.udir.no/kl06/RLE1-02>

「自然科学」: <https://www.udir.no/kl06/NAT1-03>

「自然科学——サーミ」: <https://www.udir.no/kl06/NAT2-03>

「社会研究」: <https://www.udir.no/kl06/SAF1-03>

「社会研究——サーミ」: <https://www.udir.no/kl06/SAF2-03>

他方、「自然科学——サーミ」の場合では、教科の目的の中に「サーミの伝統的知識（実践的技能や全体論的な考え方）やサーミの技能（自然を理解し道理的かつ責任のある形で自然を活用すること）を次世代へと継承することに貢献する」という記述がみられ、また、教科の領域の中に、「自然科学」の中にはみられない「自然の中の人間」が存在している。そのコンピテンスとしては、例えば、「他の先住民族の自然資源の利用の仕方について述べることができる（7年生）」などが記述されている。

最後に、「社会研究——サーミ」では、教科の目的に「この教科は、サーミエリアのサーミ文化などの北方サーミに関する知識を含む」という表現や「先住民族やマイノリティの状況と権利を分析することに関する素養を育む」などの記述がみられる。コンピテンスをみると「ノルウェーにおける権力制度（含：サーミ議会）とその責務について説明できる（7年生）」「現代において、どのように伝統的な知識が継承されることができるか議論できる（10年生）」などが強調されている。

3-2 後期中等教育

ノルウェーの後期中等教育は、先に触れたように、一般教育と職業教育のプログラムがある。そのカリキュラムには、それぞれ共通コア科目と個別プログラム科目がある。共通コア科目は、基本的には、一般教育と職業教育のすべてのプログラムで学習される科目であり、個別プログラム科目は、先に示した5つの一般教育と8つの職業教育のプログラムのそれぞれの内容に沿ったものである。

こうした後期中等教育も、初等・前期中等教育の場合と同様に、「ナレッジ・プロモーション——サーミ」が存在している。表4には一般教育の教科専門科目の場合を示した。

表4 教科の配分（後期中等教育）（一般教育の教科専門科目プログラム）

		1年目		2年目		3年目		合計	
		「通常」	サーミ	「通常」	サーミ	「通常」	サーミ	「通常」	サーミ
共通コア科目	宗教と倫理 (Religion og etikk)					84	84	84	84
	ノルウェー語 (Norsk)	113		112		168		393	
	第一言語としてのサーミ語 (ノルウェー語)		103		103		103		309
	(Førstespråk samisk/norsk)								
	第二言語としてのノルウェー語 (サーミ語)		103		103		103		309
	(Andrespråknorsk/samisk/finsk)								
	数学 (Matematikk)	140	140	84	84			224	224
	自然科学 (Naturfag)	140	140					140	140
	英語 (Engelsk)	140	140					140	140
	外国語 (Fremmedspråk)	113		112				225	
	社会研究 (Samfunnsfag)	84	84					84	84
	地理 (Geografi)	56	56					56	56
	歴史 (Historie)			56	56	113	113	169	169
	体育 (Kroppssøving)	56	56	56	56	56	56	168	168
	共通コア計	842	822	420	402	421	459	1683	1683
個別プログラム 科目	専門科目 (Programfag fra eget programområde)			280	280	280	280	560	560
	オプション科目 (Programfag fra studieforberedende utdanningsprogram)			140	140	140	140	280	280
	合計	842	822	840	822	841	879	2523	2523

* 「通常」:「ナレッジ・プロモーション」、サーミ:「ナレッジ・プロモーション——サーミ」

* Utdanningsdirektoratet (UDIR) の以下のURLのTabell (表) 4から作成

(<https://www.udir.no/regelverk-og-tilsyn/finn-regelverk/etter-tema/Innhold-i-opplaringen/udir-01-2016/vedlegg-1/3vgo/#3.3.studiespesialisering>)

表5 カリキュラム間の相違（後期中等教育）（「宗教」「自然科学」「社会研究」「地理」「歴史」（抜粋）

宗教と倫理		
箇所	「宗教と倫理」	「宗教と倫理——サーミ」
目的	この教科は、ノルウェー、ヨーロッパ、グローバルな文脈の宗教的哲学的伝統を強調する	この教科は、サーミ、ノルウェー、ヨーロッパ、グローバルな文脈の宗教的哲学的伝統を強調する
主要領域	宗教知識と宗教批評	宗教知識と宗教批評
	イスラム教とその他の宗教	北極圏先住民民族宗教とイスラム教
	キリスト教	キリスト教
	哲学、倫理、宗教的ヒューマニズム	哲学、倫理、宗教的ヒューマニズム
コンピテンス	宗教知識と宗教批評	「サーミ宗教」「北極圏の先住民の宗教」を含む宗教の多様な定義を議論することができる（一般教育の3年目）
	北極圏先住民民族宗教とイスラム教	他の宗教や信念と比較しながら北極圏の宗教について議論できる（一般教育の3年目）
	キリスト教	サーミエリアにおける布教活動の歴史とサーミ教会の現状（一般教育の3年目）
自然科学		
箇所	「自然科学」	「自然科学——サーミ」
目的		サーミの伝統的知識（実践的な技能や全体的な考え方）やサーミの技能（自然を理解し、道徳的かつ責任のある形で自然を活用すること）などが次世代へと継承されることに貢献する
コンピテンス	科学	伝統的知識と科学的知識の相違と類似について議論することができる（一般教育の1年目と3年目）
	持続的な発展	人口の大きさに影響を与える要因について説明できる 人口の大きさに影響を与える要因に関するグローバルなコンフリクトを検討することができる 環境的な論点に関連するグローバルなコンフリクトを検討することができる そうした論争の根拠や結論の質について議論することができる
		人口の大きさに影響を与える要因について説明でき、北部地域の動植物系の変化の例を示すことができる（1年目） 環境的な論点や管理に関するコンフリクト（ローカルやグローバル）を検討することや、こうしたコンフリクトが、ローカルな人口（サーミやその他の先住民）や世界に与える帰結を議論することができる（1年目）
社会研究		
箇所	「社会研究」	「社会研究——サーミ」
目的		この教科は、サーミエリアのサーミ文化などの北方サーミに関する知識を含む。 この教科を通して、生徒学生は、過去と現在の社会問題を分析・議論することや、多様な権力関係を議論すること、先住民民族やマイノリティの状況と権利を分析することに関する素養を育む
コンピテンス	労働と職業	サーミ産業やサーミ社会のなかでの雇用機会や富の創出について議論し、また失業について議論できる（1年目と2年目）
	政治と民主主義	先住民の権利を説明し、サーミの人々の自己決定を議論することができる（1年目と2年目）
	国際関係	グローバリゼーションの概念を定義し、その多様な帰結を先住民民族の状況に焦点をあてて考察できる（1年目と2年目）
地理		
箇所	「地理」	「地理——サーミ」
目的	人口変動と資源配分のあり方（含：変化）に関する基礎的な理解を提供する	先住民の視点から、人口変動と資源配分のあり方（含：変化）に関する基礎的な理解を提供する
コンピテンス	景観と気候	景観が内的要因と外的要因によってどのように形成されるのかを説明することができる ノルウェーの典型的な地勢を理解することができる
	資源と産業	ノルウェーにおける多様な土地利用の形態を例を挙げ比較できる
	人口と発展	ノルウェーとサーミエリアにおける異なった形態の土地利用を例を挙げ比較できる（1年目と2年目） ノルウェーとサーミエリアにおける人口学的な発展を説明できる（1年目と2年目）
歴史		
箇所	「歴史」	「歴史——サーミ」
目的		サーミの人々の生活や活動を理解することに貢献する 現在のサーミの人々の状況に影響を与えてきた多様な社会過程を理解することに貢献する
コンピテンス	歴史の理解と方法	歴史家などが歴史を時代に分ける理由を説明し、現在の時代区分の原理について議論することができる
	社会と個人の変動	北欧国家やロシアが、サーミエリアをどのように境界づけたか示し、そのサーミの人々に対する影響を議論できる（一般教育の1年目） 産業革命の主要な特徴を説明し、ノルウェー社会やサーミ社会の経済発展や社会状況に対して何が重要であったか検討できる（一般教育の3年目） サーミ組織や制度の発展に関するいくつかの基礎を示すことができる（一般教育の3年目）

* Utdanningsdirektoratet (UDIR) の以下のURLから作成

「宗教と倫理」: <https://www.udir.no/kl06/RLE1-02>「宗教と倫理——サーミ」: <https://www.udir.no/kl06/RLE1-02>「自然科学」: <https://www.udir.no/kl06/NAT1-03>「自然科学——サーミ」: <https://www.udir.no/kl06/NAT2-03>「社会研究」: <https://www.udir.no/kl06/SAF1-03>「社会研究——サーミ」: <https://www.udir.no/kl06/SAF2-03>「地理」: <https://www.udir.no/kl06/GEO1-01>「地理——サーミ」: <https://www.udir.no/kl06/GEO2-01>「歴史」: <https://www.udir.no/kl06/HIS1-02>「歴史——サーミ」: <https://www.udir.no/kl06/HIS2-02>

表6 個別プログラム科目の中のサーミカリキュラム（後期中等教育）

プログラム			
一般教育	教科専門科目	社会科学	サーミの歴史と社会 1
			サーミの歴史と社会 2
	音楽・ダンス・演劇	音楽	サーミ音楽と演劇
		演劇	サーミ音楽と演劇
	芸術・デザイン・建築		サーミ視覚文化
職業教育	デザインとハンドクラフト		デザインとDuoji（2年目）
			Duoji（3年目）
			Duoji（角・骨・金属）（3年目）
			Duoji（革・毛）（3年目）
			Duoji（織物機と手編物）（3年目）
			Duoji（織物）（3年目）
	農業漁業林業		トナカイ飼育（2年目）
			トナカイ飼育（3年目）

* Utdanningsdirektoratet (UDIR) の以下のURLから作成

(<https://www.udir.no/regelverk-og-tilsyn/finn-regelverk/etter-tema/Innhold-i-opplaringen/udir-01-2016/vedlegg-1/3vgo/#3.3.2studiespesialisering>)

そこからわかるように、初等・前期中等教育の場合と同様、「第一言語としてのサーミ語（ノルウェー語）」「第二言語としてのノルウェー語（サーミ語）」というサーミ語に関するカリキュラムが存在している⁷⁾。

また、初等・前期中等教育と同じく、「平行で同等」な位置を与えられている教科が存在している。具体的には、「宗教と倫理——サーミ」「自然科学——サーミ」「社会研究——サーミ」「地理——サーミ」「歴史——サーミ」である。そして、ここでも、初等・前期中等教育でみられた特徴を確認できる（表5）。すなわち、教科の目的、教科の領域、達成目標としてのコンピテンスにおいて、サーミの伝統的な知識、サーミや先住民の人々の観点、サーミの人々の状況の理解などが強調されている。

例えば、「地理——サーミ」では、教科の目的において、「人口変動と資源配分のあり方（含：変化）に関する基礎的な理解を提供する」という箇所に、「先住民族の視点から」それを行うという記述が加えられている。

また、主要領域が異なる教科もみられる。例えば、「宗教と倫理——サーミ」をみると、「宗教と倫理」では「イスラム教とその他の宗教」であるのに対し、「宗教と倫理——サーミ」では、「北極圏の先住民宗教とイスラム教」となっている。

こうした目的や領域の違いと関連しつつ、達成すべきコンピテンスにおいても強調されているものがある。例えば、「社会研究——サーミ」では、「先住民の権利を説明し、サーミの人々の自己決定を議論することができる」（1～2年生）というコンピテンスなどが、「歴史——サーミ」では、「北欧国家やロシアが、サーミエリアをどのように境界づけたか示し、そのサーミの人々に対する影響を議論できる」（一般教育の1年生）というコンピテンスなどが加えられている。

後期中等教育の場合には、先に触れたように個別プログラム科目も存在している。そこにおいても「ナレッジ・プロモーション——サーミ」が存在している（表6）。まず、一般教育の場合をみると、例えば、教科専門科目のうち社会科学には、「サーミの歴史と社会1」「サーミ

の歴史と社会2」が存在している。さらに、「サーミ音楽と演劇」（音楽・演劇）や「サーミの視覚文化」（芸術・デザイン・建築）もある。他方で、職業教育をみると、「デザインとDuoji」（デザインとハンドクラフト）や「トナカイ飼育」（農業漁業林業）などがある。

4. 教材と教員

4-1 教材

こうした教育内容において、いくつか教科では、サーミ語の教材が提供されている⁸⁾。ノルウェーのサーミ議会が2014年に作成した「Matrise over samiske læremidler 2014」（「サーミ教育教材のマトリクス2014」）を確認しよう（表7）。

北サーミ語を例にみてみよう。まず、初等・前期中等段階では、「第一言語としてのサーミ語」「算数・数学」「宗教」「社会研究」においては、全ての学年において主要なコンピテンスがカバーされたサーミ語の教材（教科書またはデジタル教材）が存在している。

ただし、その他の教科に関しては、サーミ語教材が全ての学年に十分な形で存在しているとは言い難い。例えば、「英語」に関しては、1～4年生で一部のコンピテンスがカバーされた教材が存在しているものの、5～10年生では全くないもしくは少ししかないと評価され、「地理」に関しては、主要なコンピテンスがカバーされたサーミ語の教材が存在しているのは5～7年生でのみである。

こうした傾向は、後期中等教育の段階でも確認できる。後期中等教育段階において、例えば、全ての学年で主要なコンピテンスがカバーされたサーミ語の教材が存在しているのは「宗教と倫理」「歴史」「サーミの歴史と社会」のみであるからである。

加えて、こうしたサーミ語教材は、北サーミ語と比べて、ルレ・サーミ語と南サーミ語では十分に整備されているとは言い難い点にも注意を払う必要がある。例えば、ルレ・サーミ語と南サーミ語ともに、全ての学年において主要なコンピテンスがカバーされたサーミ語の教材が存在している教科はみられない。また、後期中等教育の個別プログラム科目に関してみると、その中の全ての科目について、ルレ・サーミ語と南サーミ語の教材が少ししか存在しないか、まったく存在していないと評価されている。

とはいえ、こうした現状は、以前と比べれば大きく改善してきたようだ（Szilvási2016：86）。こうした動きで重要な役割を果たしているのは、サーミ教育に関連する教材に関する情報を広め、教員などにサーミ教育教材を提供することを目的として2011年から開始されたOvttasと呼ばれるポータルサイトの存在だろう⁹⁾。そのポータルには、デジタル教材、図表、印刷された教科書やパンフレットの情報などが収集され、それらは自由に使用でき、また教員自身が開発した教材を公開し他の教員と共有することもできる。2017年現在、初等教育の1～4年生向けは3242、5～7年生向けには3048、前期中等教育向けには3186、後期中等教育に関しては3074の（補助）教材などが存在している。なお、このポータルには、3つのサーミ語（北サーミ、ルレ・サーミ、南サーミ）だけでなく、ノルウェー語で書かれたサーミ教育の教材も提供されている（Samitingets 2015：3）。

また、「ナレッジ・プロモーション——サーミ」はもちろん、「ナレッジ・プロモーション」

表7 サーミ語教材の現状

北サーミ語

	初等教育							前期中等教育			後期中等教育		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3
第一言語としてのサーミ語	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△
第二言語としてのサーミ語	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△
算数・数学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—
英語	△	△	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宗教/宗教と倫理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○
自然科学	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○	—	—	—
社会研究	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—
歴史	—	—	—	—	○	○	○	○	○	○	—	○	○
地理	—	—	—	—	○	○	○	▲	▲	▲	△	△	—
体育	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Duodji	△	△	△	△	△	△	△	▲	▲	▲	—	—	—
音楽	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	△	△	△	—	—	—
食物と健康	△	△	△	△	—	—	—	▲	▲	▲	—	—	—
デザインとDuoji	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△	▲	—
トナカイ飼育	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	▲	▲	—
サーミの歴史と社会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○
サーミ音楽と演劇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
サーミ視覚文化	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ルレ・サーミ語

	初等教育							前期中等教育			後期中等教育		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3
第一言語としてのサーミ語	○	▲	▲	△	○	○	○	○	○	○	▲	▲	▲
第二言語としてのサーミ語	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	▲	▲	▲
算数・数学	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	—	—	—
英語	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宗教/宗教と倫理	○	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
自然科学	△	△	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—
社会研究	▲	▲	▲	▲	○	○	○	—	—	—	—	—	—
歴史	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
地理	—	—	—	—	○	○	○	—	—	—	—	—	—
体育	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Duodji	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
音楽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
食物と健康	△	△	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—
デザインとDuoji	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
トナカイ飼育	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
サーミの歴史と社会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
サーミ音楽と演劇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
サーミ視覚文化	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

南サーミ語

	初等教育							前期中等教育			後期中等教育		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3
第一言語としてのサーミ語	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△
第二言語としてのサーミ語	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△
算数・数学	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	—
英語	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宗教/宗教と倫理	○	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
自然科学	△	△	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—
社会研究	—	—	—	—	○	○	○	—	—	—	—	—	—
歴史	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
地理	—	—	—	—	○	○	○	—	—	—	—	—	—
体育	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Duodji	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
音楽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
食物と健康	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
デザインとDuoji	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
トナカイ飼育	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
サーミの歴史と社会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
サーミ音楽と演劇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
サーミ視覚文化	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

サーミ議会（ノルウェー）の「Matrise over samiske læremidler 2014」から作成

(URL: <http://www.sametinget.no/Opplaering/Laeremidler/Sametingets-handlingsplan-for-utvikling-av-laeremidler>)

凡例: 「○」→主要なコンピテンスがカバーされている。教科書やデジタル教材。

「△」→コンピテンスの一部分がカバーされている。ブックレットやデジタル補助教材

「▲」→以前のカリキュラム（97年）に対応したもの

「—」→無or少し

「斜め線」→教科自体がない

注: サーミ語によって教科自体がない箇所が異なる場合があるが、「Matrise over samiske læremidler 2014」に従った

においても、サーミ語やサーミ文化は共通の文化遺産としてカリキュラム上重要な位置を与えられていること（Utdanningsdirektoratet（教育訓練局）2015：5）を背景として、サーミ教育に関連する教育資源への要求が高まり、サーミ語やサーミ文化に関する教員用教材としてブックレット（Gavnø）が2007年から提供されている。このGavnø¹⁰⁾は、2015年発行のものによると、「ノルウェー語」「社会研究」「地理」「歴史」「宗教」「宗教と倫理」という言語や社会に関連する科目で提供されている（Utdanningsdirektoratet 2015）。

4-2 教員

こうした教育を担うノルウェーの教員についてみておこう¹¹⁾。まず、初等・前期中等教育の教員は、1～7年生向けと5～10年生向けの2つの教員養成プログラムを受けて教員になるのがスタンダードである。サーミ・ユニバーシティ・カレッジ（Sámi allaskuvla）¹²⁾では、この2つの教員養成プログラムに対応した形で、特別な第1～7年生向けと第5～10年生向けの教員養成教育プログラムが提供されている。そこでは、サーミ語とDuojiが義務科目であり、全ての科目がサーミ語で教えられている。これらの卒業生は、ノルウェー語とサーミ語を母語とする学校の両方で教えることができる資格を得る。

後期中等教育の教員は、8～13年¹³⁾向けの教員養成プログラムが存在している。また、職業教育に関する教員養成プログラムも存在している。後期中等教育の場合、サーミ・ユニバーシティ・カレッジでは、初等・前期中等教育の場合にみた特別な教員養成プログラムは提供されていない。それゆえ、教科に関連する専門分野を学ぶことにより、サーミに関連する科目の教員になると判断できる。例えば、サーミ・ユニバーシティ・カレッジでは、「サーミ文化と社会」などのプログラムが提供されている¹⁴⁾。

なお、サーミに関する教育を十分に行うことができる教員を学校が提供できない場合、遠隔教育などの他の形式を通してサーミ教育が提供されている。こうした遠隔教育はE-skuvlaによって担われている。そこでは、Skype（スカイプ）を通し、デジタル教材とプリントされた教材を用いながら教育が行われている。例えば、後期中等教育の場合は、「第二言語としてのサーミ語」と、「外国語としてのサーミ語」を学ぶことが提供されている¹⁵⁾。こうした取り組みは、1999年から始められ、2005年に常設のサービスとなった（Council of Europe 2008：23）。

5. サーミ教育を受ける生徒学生数

5-1 初等・前期中等教育

では、どの程度の生徒や学生が、こうしたサーミ教育を受けているのだろうか。まずは、初等・前期中等教育の場合を表8から確認しよう¹⁶⁾。

まず、第1に、「第一言語としてのサーミ語」「第二言語としてのサーミ語」を受けている者を見ると、2000年代前半は1786～1945名だったものが、2006-2009年度には、おそらく難易度の低い「第二言語としてのサーミ語（サーミ語3）」が導入されたことを背景に、2500名を超えるようになった。ただし、それ以降は、やや減少傾向にあり、2016-17年度では2124名となっている。

次に、第2に、それらを受けている者の構成比をみると、現在のサーミ語話者の数¹⁷⁾を反映し、北サーミ語を学んでいる者が多いことがわかる。例えば、2016-17年度をみると、北サーミ語の「第一言語としてのサーミ語」は41.2%、「第二言語としてのサーミ語（サーミ語2）」26.2%、「第二言語としてのサーミ語（サーミ語3）」23.0%となっており、サーミ語を学ぶ者のうちの90.4%が北サーミ語を学んでいる。

表8 「第一（二）言語としてのサーミ語」生徒数（初等・前期中等教育）

			2001-02	2002-03	2003-04	2004-05	2005-06	2006-07	2007-08	2008-09	2009-10	2010-11	2011-12	2012-13	2013-14	2014-15	2015-16	2016-17	
度数	北サーミ語	第一言語	989	986	950	970	953	971	984	997	964	928	895	879	877	878	833	875	
		第二言語（サーミ語2）	667	674	787	820	839	689	536	573	547	539	508	475	525	641	593	557	
		第二言語（サーミ語3）	-	-	-	-	-	819	834	769	647	606	584	579	545	424	509	488	
	ルレ・サーミ	第一言語	34	32	33	34	29	31	25	27	26	29	25	30	19	22	28	26	
		第二言語（サーミ語2）	21	17	31	24	27	30	40	36	23	44	27	30	44	30	39	60	
		第二言語（サーミ語3）	-	-	-	-	-	16	14	14	32	24	20	38	30	47	46	18	
	南サーミ	第一言語	1	3	10	10	16	18	18	19	20	18	20	21	20	15	21	26	
		第二言語（サーミ語2）	74	79	81	69	81	78	75	68	58	62	63	62	48	46	81	51	
		第二言語（サーミ語3）	-	-	-	-	-	20	16	14	19	10	11	12	18	13	14	23	
		合計	1786	1791	1892	1927	1945	2672	2542	2517	2336	2260	2153	2126	2126	2116	2164	2124	
	割合	北サーミ語	第一言語	55.4%	55.1%	50.2%	50.3%	49.0%	36.3%	38.7%	39.6%	41.3%	41.1%	41.6%	41.3%	41.3%	41.5%	38.5%	41.2%
			第二言語（サーミ語2）	37.3%	37.6%	41.6%	42.6%	43.1%	25.8%	21.1%	22.8%	23.4%	23.8%	23.6%	22.3%	24.7%	30.3%	27.4%	26.2%
第二言語（サーミ語3）			-	-	-	-	-	30.7%	32.8%	30.6%	27.7%	26.8%	27.1%	27.2%	25.6%	20.0%	23.5%	23.0%	
ルレ・サーミ		第一言語	1.9%	1.8%	1.7%	1.8%	1.5%	1.2%	1.0%	1.1%	1.1%	1.3%	1.2%	1.4%	0.9%	1.0%	1.3%	1.2%	
		第二言語（サーミ語2）	1.2%	0.9%	1.6%	1.2%	1.4%	1.1%	1.6%	1.4%	1.0%	1.9%	1.3%	1.4%	2.1%	1.4%	1.8%	2.8%	
		第二言語（サーミ語3）	-	-	-	-	-	0.6%	0.6%	0.6%	1.4%	1.1%	0.9%	1.8%	1.4%	2.2%	2.1%	0.8%	
南サーミ		第一言語	0.1%	0.2%	0.5%	0.5%	0.8%	0.7%	0.7%	0.8%	0.9%	0.8%	0.9%	1.0%	0.9%	0.7%	1.0%	1.2%	
		第二言語（サーミ語2）	4.1%	4.4%	4.3%	3.6%	4.2%	2.9%	3.0%	2.7%	2.5%	2.7%	2.9%	2.9%	2.3%	2.2%	3.7%	2.4%	
		第二言語（サーミ語3）	-	-	-	-	-	0.7%	0.6%	0.6%	0.8%	0.4%	0.5%	0.6%	0.8%	0.6%	0.6%	1.1%	
サーミ語内割合		北サーミ語	第一言語	59.7%	59.4%	54.7%	54.2%	53.2%	39.2%	41.8%	42.6%	44.7%	44.8%	45.0%	45.5%	45.0%	45.2%	43.0%	45.6%
			第二言語（サーミ語2）	40.3%	40.6%	45.3%	45.8%	46.8%	27.8%	22.8%	24.5%	25.3%	26.0%	25.6%	24.6%	27.0%	33.0%	30.6%	29.0%
			第二言語（サーミ語3）	-	-	-	-	-	33.0%	35.4%	32.9%	30.0%	29.2%	29.4%	30.0%	28.0%	21.8%	26.3%	25.4%
	ルレ・サーミ	第一言語	61.8%	65.3%	51.6%	58.6%	51.8%	40.3%	31.6%	35.1%	32.1%	29.9%	34.7%	30.6%	20.4%	22.2%	24.8%	25.0%	
		第二言語（サーミ語2）	38.2%	34.7%	48.4%	41.4%	48.2%	39.0%	50.6%	46.8%	28.4%	45.4%	37.5%	30.6%	47.3%	30.3%	34.5%	57.7%	
		第二言語（サーミ語3）	-	-	-	-	-	20.8%	17.7%	18.2%	39.5%	24.7%	27.8%	38.8%	32.3%	47.5%	40.7%	17.3%	
	南サーミ	第一言語	1.3%	3.7%	11.0%	12.7%	16.5%	15.5%	16.5%	18.8%	20.6%	20.0%	21.3%	22.1%	23.3%	20.3%	18.1%	26.0%	
		第二言語（サーミ語2）	98.7%	96.3%	89.0%	87.3%	83.5%	67.2%	68.8%	67.3%	59.8%	68.9%	67.0%	65.3%	55.8%	62.2%	69.8%	51.0%	
		第二言語（サーミ語3）	-	-	-	-	-	17.2%	14.7%	13.9%	19.6%	11.1%	11.7%	12.6%	20.9%	17.6%	12.1%	23.0%	
ノルウェー全体に占める合計の割合			0.30%	0.29%	0.31%	0.31%	0.31%	0.43%	0.41%	0.41%	0.38%	0.37%	0.35%	0.35%	0.35%	0.34%	0.35%	0.34%	

* Grunnskolen Informasjonssystem (GSI) のOpenGSIより作成

さらに、第3に、各サーミ語内における「第一言語としてのサーミ語」と「第二言語としてのサーミ語（サーミ語2）」「第二言語としてのサーミ語（サーミ語3）」の構成比をみると、まず、（1）北サーミ語の場合、「第一言語としてのサーミ語」を学ぶ者が多くなっている。例えば、2016-17年度では「第一言語としてのサーミ語」は45.6%となっている。他方で、（2）ルレ・サーミ語と南サーミ語では、「第二言語としてのサーミ語」を学ぶ者が多くみられる。例えば、2016-17年度では、「第二言語としてのサーミ語（サーミ語2）」が、ルレ・サーミ語で57.7%、南サーミ語51.0%となっている。こうした点は、サーミ語話者の少なさに起因して、生徒が学校以外でルレ・サーミ語や南サーミ語に触れる機会が少ないことが関係しているかもしれない。

ただ、第4に、ノルウェー全体に占めるそれらを学ぶ者の割合は、2001年以降現在まで0.29～0.43%であり、かなり少ない割合である点には留意をする必要があろう。その意味で、「第一言語としてのサーミ語」「第二言語としてのサーミ語」を学ぶ者はそれほど多くはない¹⁸⁾。

5-2 後期中等教育

次に、後期中等教育の場合をみよう¹⁹⁾。まず、第1に、表9から「第一言語としてのサーミ語」「第二言語としてのサーミ語」を合わせた数をみよう。そこでは、2000年代の341～369名から、2010年代には、400名を超えるようになり、2016-17年度では471名となっている。

「第一言語としてのサーミ語」と「第二言語としてのサーミ語」の内訳をみると、2013-14年度までは「第一言語としてのサーミ語」が多かったものの2014-15年度以降は「第二言語としてのサーミ語」の方が多くなっている。とはいえ、全ての年度で、「第一言語としてのサーミ語」「第二言語としてのサーミ語」いずれも40～50%代であり、その意味で両者はそれぞれ半数程度を占めている。ただ、ノルウェーの全ての学生に占める割合は0.19～0.26%であり、初等・前期中等教育の場合と同様、かなり少ない割合である点には留意する必要がある。

また、表10からそれらで用いられるサーミ語の内訳をみると、初等・前期中等教育の場合と同様に、北サーミ語が多数を占めている。さらに、表11から地域別に確認すると、北サーミ語による「第一言語としてのサーミ語」「第二言語としてのサーミ語」は多くの場合、フィンマルク（Finnmark）県で行われている。例えば、2016-17年度においてノルウェー全体で北サーミ語を用いて「第一言語としてのサーミ語」を受けている200名の学生うちその91.0%（182名）がフィンマルク（Finnmark）県の学生である。先に触れたように、こうしたサーミ教育のほとんどが北サーミ語でなされている点を踏まえると、「第一言語としてのサーミ語」「第二言語としてのサーミ語」の多くは、フィンマルク県で行われていることがわかる。

こうした点と関連し、地域内における「第一言語としてのサーミ語」「第二言語としてのサーミ語」を受ける学生の割合は、他の地域と比べて、フィンマルク県で高くなっている。例えば、2016-17年度の場合、フィンマルク県の学生のうち、「第一言語としてのサーミ語」を受ける者は6.13%、「第二言語としてのサーミ語」を受ける者は6.63%と合わせて12.8%であり、先に触れた全国の値と大きな違いがある。

表9 「第一（二）言語としてのサーミ語」学生数（後期中等教育）

		2008-09	2009-10	2010-11	2011-12	2012-13	2013-14	2014-15	2015-16	2016-17
度数	第一言語としてのサーミ語	189	215	248	267	236	242	203	213	204
	第二言語としてのサーミ語	152	154	185	206	180	209	243	247	267
	合計	341	369	433	473	416	451	446	460	471
割合	第一言語としてのサーミ語	55.4%	58.3%	57.3%	56.4%	56.7%	53.7%	45.5%	46.3%	43.3%
	第二言語としてのサーミ語	44.6%	41.7%	42.7%	43.6%	43.3%	46.3%	54.5%	53.7%	56.7%
ノルウェー全体に占める割合(合計)		0.19%	0.21%	0.24%	0.26%	0.22%	0.24%	0.24%	0.24%	0.25%

* 2008-09～2012-13はUtdanningsdirektoratet (UDIR) のホームページから。2013-14以降は, Statistikkportalen(statistics portal) から作成

表10 サーミ語別「第一（二）言語としてのサーミ語」（後期中等教育）

	度数				割合			
	2013-14	2014-15	2015-16	2016-17	2013-14	2014-15	2015-16	2016-17
ルレ・サーミ語	21	20	11	17	4.7%	4.5%	2.4%	3.6%
北サーミ語	409	407	430	438	90.7%	91.3%	93.5%	92.8%
南サーミ語	21	19	19	17	4.7%	4.3%	4.1%	3.6%
合計	451	446	460	472	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

*Statistikkportalen (statistics potal) から作成

表11 地域別「第一（二）言語としてのサーミ語」学生数（後期中等教育）

		度数				全国に占める割合				各地域学生数に占める割合					
		2013-14	2014-15	2015-16	2016-17	2013-14	2014-15	2015-16	2016-17	2013-14	2014-15	2015-16	2016-17		
全国	第一言語としてのサーミ語		242	203	213	204					0.13%	0.11%	0.11%	0.11%	
		ルレ・サーミ語	11	7	3	1					0.01%	0.00%	0.00%	0.00%	
		北サーミ語	226	192	205	200					0.12%	0.10%	0.11%	0.10%	
		南サーミ語	5	4	5	3					0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
	第二言語としてのサーミ語		209	243	247	267					0.11%	0.13%	0.13%	0.14%	
		ルレ・サーミ語	10	13	8	16					0.01%	0.01%	0.00%	0.01%	
		北サーミ語	183	215	225	238					0.10%	0.11%	0.12%	0.12%	
		南サーミ語	16	15	14	14					0.01%	0.01%	0.01%	0.01%	
フィンマルク県 (Finnmark)	第一言語としてのサーミ語		198	177	189	182	81.8%	87.2%	88.7%	89.2%	6.52%	6.12%	6.42%	6.13%	
		ルレ・サーミ語	0	1	0	0	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.00%	0.03%	0.00%	0.00%	
		北サーミ語	198	176	189	182	87.6%	91.7%	92.2%	91.0%	6.52%	6.09%	6.42%	6.13%	
		南サーミ語	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
	第二言語としてのサーミ語		157	177	187	197	75.1%	72.8%	75.7%	73.8%	5.17%	6.12%	6.35%	6.63%	
		ルレ・サーミ語	1	1	1	1	10.0%	7.7%	12.5%	6.3%	0.03%	0.03%	0.03%	0.03%	
		北サーミ語	156	176	186	196	85.2%	81.9%	82.7%	82.4%	5.13%	6.09%	6.31%	6.60%	
		南サーミ語	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
ヌールラン県 (Nordland)	第一言語としてのサーミ語		21	4	2	1	8.7%	2.0%	0.9%	0.5%	0.22%	0.04%	0.02%	0.01%	
		ルレ・サーミ語	9	4	2	1	81.8%	57.1%	66.7%	100.0%	0.09%	0.04%	0.02%	0.01%	
		北サーミ語	11	0	0	0	4.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.11%	0.00%	0.00%	0.00%	
		南サーミ語	1	0	0	0	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.01%	0.00%	0.00%	0.00%	
	第二言語としてのサーミ語		16	20	12	16	7.7%	8.2%	4.9%	6.0%	0.17%	0.21%	0.13%	0.17%	
		ルレ・サーミ語	9	12	7	14	90.0%	92.3%	87.5%	87.5%	0.09%	0.13%	0.07%	0.15%	
		北サーミ語	1	6	3	1	0.5%	2.8%	1.5%	0.4%	0.01%	0.06%	0.03%	0.01%	
		南サーミ語	6	2	2	1	37.5%	13.3%	14.3%	7.1%	0.06%	0.02%	0.02%	0.01%	
ヌール・トロンデラーク県 (Nord-Trøndelag)	第一言語としてのサーミ語		3	3	5	3	1.2%	1.5%	2.3%	1.5%	0.05%	0.05%	0.09%	0.05%	
		ルレ・サーミ語	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
		北サーミ語	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
		南サーミ語	3	3	5	3	60.0%	75.0%	100.0%	100.0%	0.05%	0.05%	0.09%	0.05%	
	第二言語としてのサーミ語		5	8	3	4	2.4%	3.3%	1.2%	1.5%	0.09%	0.14%	0.05%	0.07%	
		ルレ・サーミ語	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
		北サーミ語	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
		南サーミ語	5	8	3	4	31.3%	53.3%	21.4%	28.6%	0.09%	0.14%	0.05%	0.07%	
ソール・トロンデラーク県 (Sør-Trøndelag)	第一言語としてのサーミ語		1	1	1	0	0.4%	0.5%	0.5%	0.0%	0.01%	0.01%	0.01%	0.00%	
		ルレ・サーミ語	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
		北サーミ語	0	0	1	0	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.00%	0.00%	0.01%	0.00%	
		南サーミ語	1	1	0	0	20.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.01%	0.01%	0.00%	0.00%	
	第二言語としてのサーミ語		4	5	7	5	1.9%	2.1%	2.8%	1.9%	0.03%	0.04%	0.06%	0.04%	
		ルレ・サーミ語	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
		北サーミ語	0	1	1	2	0.0%	0.5%	0.4%	0.8%	0.00%	0.01%	0.01%	0.02%	
		南サーミ語	4	4	6	3	25.0%	26.7%	42.9%	21.4%	0.03%	0.03%	0.05%	0.03%	
トロムス県 (Troms)	第一言語としてのサーミ語		19	18	16	18	7.9%	8.9%	7.5%	8.8%	0.30%	0.29%	0.25%	0.29%	
		ルレ・サーミ語	2	2	1	0	18.2%	28.6%	33.3%	0.0%	0.03%	0.03%	0.02%	0.00%	
		北サーミ語	17	16	15	18	7.5%	8.3%	7.3%	9.0%	0.27%	0.25%	0.24%	0.29%	
		南サーミ語	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
	第二言語としてのサーミ語		24	30	34	37	11.5%	12.3%	13.8%	13.9%	0.38%	0.48%	0.54%	0.59%	
		ルレ・サーミ語	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
		北サーミ語	24	30	34	36	13.1%	14.0%	15.1%	15.1%	0.38%	0.48%	0.54%	0.57%	
		南サーミ語	0	0	0	1	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.00%	0.00%	0.00%	0.02%	

*Statistikkportalen (statistics potal) から作成。県は、全体に占める割合が多い主要なもののみ

ただ、フィンマルク県では、ルレ・サーミ語や南サーミ語を用いて「第一言語としてのサーミ語」と「第二言語としてのサーミ語」がなされることは多くはない。同じく表11によると、ルレ・サーミ語が多く用いられているのはヌールラン（Nordland）県であり、南サーミ語が多く用いられているのはヌール・トロンデラグ（Nord-Trøndelag）県やソール・トロンデラグ（Sør-Trøndelag）県である。

次に、第2に、表12から一般教育でのサーミカリキュラムを確認すると、一般教育の個別プログラム科目のうち「サーミの歴史と社会1」「サーミの歴史と社会2」は、2016-17年度の場合それぞれ17名と12名存在している。また、「サーミ視覚文化」「サーミ音楽と演劇」は2016-17年度ではそれぞれ0名であるが、2015-16年度では9名と2名であった。

こうしたサーミ教育が行われているのは、フィンマルク県のカラショーク・アップパーセカンダリースクール（Samisk videregående skole Karasjok）とカウトケイノ・アップパーセカンダリースクール（Samisk videregående skole og Reindriftsskole Kautokeino）、さらにトロムス（Troms）県のブレイヴァン・アップパーセカンダリースクール（Breivang videregående skole）の3校だけである。そのうち、カラショーク・アップパーセカンダリースクールは、「サーミの歴史と社会1」「サーミの歴史と社会2」を最も多く行っている。例えば、2016-17年度の場合、「サーミの歴史と社会1」17名、「サーミの歴史と社会2」11名となっている。他方、ブレイヴァン・アップパーセカンダリースクールでは、「サーミ視覚文化」が2015-16年度では9名となっており、ノルウェーの中でこの学校でのみ「サーミ視覚文化」が行われていたことがわかる。

さらに、第3に、表13から職業教育のうち学校で行われる特定のサーミ教科をみると、2016-17年度の場合、「デザインとDuoji」が7名、「トナカイ飼育」が4名となっている。こうしたサーミ教育ほとんどすべてが、カウトケイノ・アップパーセカンダリースクールでなされている。加えて、表14から職業教育の後半部分を占める実地訓練をみると、2016-17年度の場合、「Duoji」が10名、「トナカイ飼育」が21名であり、その多くがフィンマルク県で行われている。

表12 一般教育におけるサーミカリキュラムの学生数（後期中等教育）

		2013-14	2014-15	2015-16	2016-17
合計	サーミ視覚文化	10	2	9	0
	サーミ音楽と演劇	5	0	2	0
	サーミの歴史と社会1	3	30	14	17
	サーミの歴史と社会2	27	0	14	12
カウトケイノ・アップパーセカンダリースクール（フィンマルク県） （Sami High School and Reindeer School Kautokeino）	サーミ視覚文化	0	2	0	0
	サーミ音楽と演劇	0	0	2	0
	サーミの歴史と社会1	3	3	2	0
	サーミの歴史と社会2	3	0	3	1
カラショーク・アップパーセカンダリースクール（フィンマルク県） （Sami upper secondary school Karasjok）	サーミ視覚文化	0	0	0	0
	サーミ音楽と演劇	5	0	0	0
	サーミの歴史と社会1	0	27	12	17
	サーミの歴史と社会2	24	0	11	11
ブレイヴァン・アップパーセカンダリースクール（トロムス県） （Breivang high school）	サーミ視覚文化	10	0	9	0
	サーミ音楽と演劇	0	0	0	0
	サーミの歴史と社会1	0	0	0	0
	サーミの歴史と社会2	0	0	0	0

* Statistikkportalen (statistics portal) から作成

表13 職業教育におけるサーミカリキュラムの学生数（後期中等教育）

		2012-13	2013-14	2014-15	2015-16	2016-17
合計	デザインとDuoji	0	3	3	6	7
	トナカイ飼育	4	8	0	10	4
カウトケイノ・アップーセカンダリースクール（フィンマルク県） （Sami High School and Reindeer School Kautokeino）	デザインとDuoji	0	3	2	6	7
	トナカイ飼育	4	8	0	10	4
グロング・アップーセカンダリースクール（ヌール・トロンデラーク県） （Grong videregående skole）	デザインとDuoji	0	0	1	0	0
	トナカイ飼育	0	0	0	0	0

*Statistikkportalen (statistics portal) から作成

表14 職業教育の徒弟制におけるサーミカリキュラムの生徒数（後期中等教育）

		2008-09	2009-10	2010-11	2011-12	2012-13	2013-14	2014-15	2015-16	2016-17
Duoji	合計	3	2	8	14	13	12	9	11	10
	フィンマルク県 (Finnmark)	3	2	5	13	12	12	8	8	8
	ヌールラン県 (Nordland)	0	0	0	0	0	0	1	1	0
	ヌール・トロンデラーク県 (Nord-Trøndelag)	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	ソール・トロンデラーク県 (Sør Trøndelag)	0	0	1	1	1	0	0	0	0
	トロムス県 (Troms)	0	0	2	0	0	0	0	0	0
トナカイ飼育	合計	24	17	25	26	25	24	16	18	21
	フィンマルク県 (Finnmark)	18	11	18	20	18	17	10	12	14
	ヌールラン県 (Nordland)	1	0	0	0	0	1	3	3	3
	ヌール・トロンデラーク県 (Nord-Trøndelag)	1	3	3	2	3	3	1	1	2
	オップラン県 (Oppland)	0	0	0	0	0	0	2	2	1
	ソール・トロンデラーク県 (Sør Trøndelag)	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	トロムス県 (Troms)	3	3	4	4	4	3	0	0	0

* Duojiは、それに関する複数の科目（例：デザインとDuojiなど）の合計

* トナカイ飼育は、それに関する2つの科目（トナカイ飼育）の合計

* Statistikkportalen (statistics portal) から作成

おわりに

ノルウェーの初等・中等教育では、サーミの子どもたちがサーミ語を学ぶことやサーミ語で学ぶことが権利として認められていた。また、初等・前期中等教育段階では、サーミ以外の生徒にもそうした権利が与えられていた。このようなサーミ教育を受ける生徒や学生は、全国レベルでみるとそれほど多くはない。しかし、サーミの内容や関連するコンピテンスを強調した独自のカリキュラムが存在しているだけでなく、サーミ語の教材も一定程度提供され、さらに、初等・前期中等教育ではサーミ教育を担う教員になるための特別な教員養成プログラムも存在していた。加えて、こうしたサーミ教育を受けない他の生徒・学生にとっても、サーミ語やサーミ文化は、共通の文化遺産としてカリキュラム上重要な位置を与えられていた。

このようにみると、以上確認してきたノルウェーにおける初等・中等教育段階のサーミ教育は、冒頭で触れたサーミ語の衰退過程の1つをなした同化主義的な学校システムとは大きく異なっている。そこでは、むしろ積極的にサーミ語やサーミ文化に関する教育が行われているといつてよい。

ただし、ルレ・サーミ語や南サーミ語の教材が少ない点、後期中等教育の場合にみたようにサーミカリキュラムを用いる県や学校が限られている点などに示されるように、サーミ教育の内容や対象には限定がみられる注意を払う必要がある。さらには、数学などに関してはいまだに独自のサーミカリキュラムが存在していない点にも留意する必要があるかもしれない²⁰⁾。

とはいえ、いずれにせよ、現在のノルウェーの初等・中等教育は、サーミ語の衰退過程の一端を担った同化主義的な学校システムとは対照的に、サーミの復権の中で大きな役割を果たしている。

注

- 1 以下、本節の記述は特に断りがない限り、Hirvonen (2008: 17-22) を主に参考にしつつ、適宜Hirvonen (2004: 32-40) を参照した。なお、後期中等教育の学校名に関しては、基本的にはData on the Political Systemのホームページ (<http://www.nsd.uib.no/polsys/data/en/forvaltning/enhet/21822>や<http://www.nsd.uib.no/polsys/data/en/forvaltning/enhet/21765>など) を参照した。
- 2 以下、ノルウェーの教育制度に関しては、Statistics Norway (2017) とUtdanningsdirektoratet (UDIR) (教育訓練局) のホームページ (<https://www.udir.no/>) を参考にした。
- 3 なお、図1にある「高等課程3 (一般教科の補足)」とは、1～2年生で職業教育を受けた者が3年生から一般教育を受ける場合に提供されるものである。
- 4 https://lovdata.no/dokument/NL/lov/1998-07-17-61#KAPITTEL_1参照。また、ノルウェー政府のホームページ (<https://www.regjeringen.no/en/dokumenter/education-act/id213315/>) にある教育法の英訳も参考にした。
- 5 ここで、サーミ地域とは、フィンマルク (Finnmark) 県のカウトケイノ (Kautokeino)、カラジョーク (Karasjok)、ターナ (Tana)、ネッセビィ (Nesseby)、ポルサンゲル (Porsanger)、トロムス (Troms) 県のコーフィヨルド (Kåfjord)、ラバンゲン (Lavangen)、ヌールラン (Nordland) 県のティスフィヨルド (Tysfjord)、ヌール・トロンデラグ (Nord-Trøndelag) 県のスノーサ (Snåsa)、ルオルビック (Røyrvik) を指す (サーミ議会のホームページ<https://www.sametinget.no/Tjenester/Spraak#section-Forvaltningsomraadet-for-samiske-spraak>参照)。
- 6 ただし、子どもが望めば履修することができる。
- 7 後期中等教育の場合、「第二言語としてのサーミ語」には、難易度別に「サーミ語2」「サーミ語3」「サーミ語4」がある。
- 8 なお、こうしたサーミ語教材の発展に関しては、このサーミ議会が計画 (直近のものはSámetingets (2015) と予算配分やそのモニタリングを行う形でその責務を負っている。
- 9 Ovttaのホームページ (<http://ovttas.no/nb>) を参照。
- 10 なお、Gavnøはルレ・サーミ語で「発見」という意味を持つ。
- 11 以下、ノルウェーの教員養成に関しては、Eurydiceのホームページ (<https://webgate.ec.europa.eu/fpfis/mwikis/eurydice/index.php/Norway>) におけるノルウェーの教員に関する記述を参考にした。
- 12 サーミ・ユニバーシティ・カレッジについては、品川 (2013)、長谷川 (2015) を参照。
- 13 ここで13年とは、後期中等教育の3年生を指す。すなわち、11 (12) 年生は後期中等教育の1 (2) 年生を指す。

- 14 サーミ・ユニバーシティ・カレッジのホームページ (<http://samas.no>) を参照。
- 15 E-skuvlaのホームページ (<http://www.e-skuvla.no>) を参照。
- 16 生徒数は、UtdanningsdirektoratetのGrunnskolen Informasjonssystem(GSI) (<https://gsi.udir.no>) のOpenGSIから作成した。なお、そこから得られる値は各年10月1日現在の値。
- 17 Rasmussen and Nolan (2011: 37) によれば、ノルウェーにおいて、北サーミ語の話者は20000~23000名程度であるのに対し、ルレ・サーミ語の話者は500~600名程度、南サーミ語の話者は200~500名程度であるという。
- 18 OpenGSIでは、特別支援教育や言語マイノリティに関連する事項については県・自治体・学校別の値を公開していないため、後述する後期中等教育の場合で行うような地域ごとの分析は行わない。
- 19 学生数は、基本的には、UtdanningsdirektoratetのStatistikkportalen (統計ポータル) (<https://statistikkportalen.udir.no/Pages/default.aspx>) から作成した。なお、そこから得られる値は各年10月1日現在の値。
- 20 この点を反映し、数学教育とサーミの知識の内容の関連を議論した研究がいくつか見られる (Fyhn 2013 など)。

参考文献

- Aikio, M., 1991, "The Sámi Language: Pressure of Change and Reification", *Journal of Multilingual and Multicultural Development*, 12 (1・2): 93-103.
- Aikio-Puoskari, U., 2009, "The Ethnic Revival, Language and Education of the Sámi, an Indigenous People, in Three Nordic Countries (Finland, Norway and Sweden)" in T. Skutnabb-Kangas, R. Phillipson, A. K. Mohanty and M. Panda eds., *Social Justice through Multilingual Education*, Bristol: Multilingual Matters, 238-62.
- Council of Europe, 2008, *European Charter for Regional or Minority Language 4th periodical report Norway*.
- Fyhn, A. B., 2013, "Sámi Culture and Values: A Study of the National Mathematics Exam for the Compulsory School in Norway", *Interchange*, 44: 349-67.
- Hammine, M., 2016, "Sámi Languages in Education in Sweden and Finland", *European Centre for Minority Issues Working Paper*, 92: 1-23.
- 長谷川紀子, 2015, 「北方少数先住民族サーメのための中等後教育: ノルウェーとスウェーデンに焦点をあてて」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 教育科学』62(2): 59-73.
- Hirovonen, V., 2004, *Sámi Culture and the School — Reflections by Sámi Teachers and the Realization of the Sámi School*, Kárásjohka: Saami University College.
- , 2008, "'Out on the fells, I feel like a Sámi': Is There Linguistic and Cultural Equality in the Sámi School ?" in Homberger, N. H. eds., *Can Schools Save Indigenous Languages ?*, Springer, 15-41.
- Lund, S., 2000, *Adult Education and Indigenous Peoples in Norway*, UNESCO Institute for Education.
- 小内透編著, 2015, 『調査と社会理論研究報告書32 ノルウェー・フィンマルク地方におけるサーミの現状』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室。

- Rasmussen, T. and Nolan, J. S., 2011, "Reclaiming Sámi languages: indigenous language emancipation from East to West", *International Journal of the Sociology of Language*, 209, 35-55.
- Sámetingets, 2015, *Sametingets handlingsplan for utvikling av læremidler 2015-2018*. (<https://www.sametinget.no/Politikk/Saker-og-dokumenter?subsection=818>).
- 品川ひろみ, 2013, 「サーミの教育の歴史と現状」小内透編著『調査と社会理論研究報告書29 ノルウェーとスウェーデンのサーミの現状』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室: 53-65.
- 庄司博史, 1995, 「民族としてのサーミ人の誕生——北欧の近代国家建設の中で」川田順造編『ヨーロッパの基層文化』岩波書店: 229-245.
- Solbakk, J. T. ed., 2006, *The Sámi People: A Handbook*, Kautokeino; Karasjok: Davvi Girji OS.
- Statistics Norway, 2017, *Facts about Education in Norway* 2017.
- Szilvási, Z., 2016, "The Learning of and in Sámi in the Norwegian School Education" *Lingwistyka Stosowana* 17: 81-91.
- Utdanningsdirektoratet (UDIR), 2015, *Gávnos Samisk innhold i Kunnskapsløftet—et ressurshefte for lærere i grunnsopplæringen*. (<https://www.udir.no/globalassets/upload/larerplaner/gavnos-ndelig-2015.pdf>).

Current Situation and Issues of Sami Education in Norway —— Focus on Primary and Secondary Education ——

Kojiro UYAMA

Key Words

Indigenous Education, Norway, Sami

Abstract

This paper examines the current situation and issues of Sami Education in Norway.

The rehabilitation of Sami as the indigenous people in Scandinavia has been progressed after World War II. Norway has been seen as an advanced model. Given the role of school system in the assimilation for Sami since modern era, it is important to clarify the current situation in Norwegian school education.

The Education Act guarantees that all the Sami pupils at primary and secondary school regardless of where they live are provided teaching in and of the Sami language. Moreover, in the Sami area non-Sami pupils at primary and lower secondary school have the right to be taught in and of the Sami. There are two parallel curriculums: “Knowledge Promotion” and “Knowledge Promotion Sami”. The latter which emphasizes the contents about the Sami has some subjects that are different from ordinary curriculum and some subjects that are parallel and equal. The teaching materials in Sami languages have been prepared under the initiatives of the Sami Parliament. Moreover there are programs for initial Sami teacher education in Sami University of Applied Sciences.

However the teaching materials in Lule and South Sami languages are not enough than North Sami. Moreover there are few areas and schools which do Sami education. Nevertheless, compared with the past, school education in Norway at present plays a large role in rehabilitation of Sami.